

平成30年7月豪雨災害における被災地外居住者への支援を 振り返る～教訓共有から今後の円滑な居住地支援を考える～

1. 開催趣旨

発災から3年3か月が経過し、応急仮設住宅入居戸数・入居者数は、ピーク時の3,415戸・9,074人（H30.11月末時点）から、建設型15戸・36人、借上型122戸・302人（R3.8月末時点）となっています。このことから、多くの方々は住まいの確保が進み、住み慣れた地域や新しい地域での生活に移行してきていることがうかがえます。

応急仮設住宅の供与など被災による支援制度も徐々に終了を迎えている中で、被災者の本当の意味での生活やくらしの再建に向けては、制度や一般施策等による支援だけではなく、選択された再建先地域での生活が定着し、安心した日常を過ごすことができるよう、居住地での地域生活支援が求められています。

これまで、県域の会議で、被災された方々が、県内どこに住んでいても、必要な支援を受けることができる、地域を基盤とした多機関協働による総合相談・生活支援体制を整備することを目的に、被災地外で生活する被災者の生活再建に向けた支援における課題の抽出・整理、対応策について協議を行ってきました。

対応策の協議により、現居住地の情報不足に対しては、居住地の相談窓口の情報提供や居住地の社協職員による初回同行訪問の実施、日常生活や経済的な面等に不安を抱えている方や、地域とのつながりが希薄化している方など、居住地での生活面での支援が必要な世帯については、居住地の行政や社協の協力のもと、10市町・約35世帯（R3.8月末時点）への現居住地による必要な支援に取り組んでいただいたところです。

そのような中で、この度、被災地外の居住者の支援に取り組んだ行政・社協にご参集いただき、これまでの被災地外の居住者への支援の取組やそこで生じた課題・対応などを教訓として振り返り、今後の円滑な居住地による支援を展開するために必要な共通認識づくりや対応策等について協議・共有することを目的に標記会議を開催することといたしました。

被災地外の居住者の支援を通じ、被災者・被災地住民がそれぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、今一度、皆さんとともに振り返り、今後の支援の在り方を考える場にしたいと考えています。ご参加のほどよろしく願いいたします。

2. 開催日時 令和3年 **10月29日**（金） **13:30～16:00**（受付13:00）

3. 開催場所 マービーふれあいセンター 1階 展示室
（岡山県倉敷市真備町箭田40-1 TEL 086-698-9111）

4. 参加対象 ① 被災時の居住市町村から他市町村に転出または避難（居住）している要継続支援被災者の居住地による支援に取り組んだ10市町*の行政並びに社協職員 *倉敷市、総社市、岡山市、玉野市、笠岡市、井原市、高梁市、浅口市、矢掛町、勝央町
② 被災者の生活支援・相談活動に取り組む行政・社協職員等

5. 参加申込 10月21日(木)迄にFAX又はE-Mailで別紙にてお申込ください。

6. その他 新型コロナウイルスの感染状況等により、オンライン開催やプログラムを一部変更することがあります。その場合は、参加申込者へメール等でお知らせいたします。

7. 開催日程 *参加者の状況等により一部プログラムの変更を行うこともあります。

時間	内容	担当等
13:00	受付	
13:30	【はじめに：目線を合わせる】 開会のあいさつ 会議の目的・目標・進め方の共有	岡山県被災者生活支援室 室長 千葉 哲也 氏 岡山県くらし復興サポートセンター
13:40	【実践共有：被災者の声と大事にしてきた支援の視点】 ～市外居住者が抱える課題や居住地による支援～	倉敷市真備支え合いセンター センター長/社会福祉士 佐賀 雅宏 氏
13:55	【振り返り：これまでの円滑な被災地外居住者の支援に向けた対応協議・取組報告】 ・これまでの被災地外居住者支援における課題への対応策等の協議や取組報告 ・居住地市町村の課題認識と市町村間での合意事項等	岡山県くらし復興サポートセンター
14:15	県内どこに住んでいても必要な支援を受けることができるために <座談会(意見交換)> 【これまでの被災地外居住者の支援の取組や教訓から今後の円滑な支援を考える】 ・被災時自治体・実施センター等からの経験教訓共有 ・被災地外の居住者支援に取り組んだ市町村等からの経験(成果・課題)共有 ・話題提供・対話 被災自治体や実施センター等では何が行われていたか。その当時はわからなかったが、今だからわかる！わかったこと！ ▶発災から応急仮設住宅移行・生活期 被災地外居住者の把握・要支援世帯の特定は？ 被災地外居住者の要支援世帯のニーズとは？ 被災時自治体、居住地による支援の連携・タイミングは？ ▶恒久住宅移行・地域生活定着期 一般施策(フォーマル)への支援のつなぎは？ 地域とのつながり等(インフォーマル)への支援のつなぎは？ 支援窓口、自治体の体制や庁内連携方法は？ など *途中休憩あり 【おわりに：目線を合わせる】 ・経験や教訓を今後活かすために	【ファシリテーター】 岡山県くらし復興サポートセンター アドバイザー 一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原 辰二 氏 倉敷市被災者見守り支援室 室長 秋山 剛 氏 倉敷市真備支え合いセンター 総社市被災者寄り添い室 居住地支援に取り組んだ 行政・社協
15:55	閉会のあいさつ	岡山県社会福祉協議会
16:00	終了	

8. 主催・お問い合わせ

岡山県くらし復興サポートセンター(担当：西原)

TEL：086-226-2830 FAX：086-225-6602 E-mail：kurashi@fukushiokayama.or.jp

岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ3階 社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会内